

Aprire



秋田大学広報誌〈アプリーレ〉

No. 35
2012



特集

「卒論」を考える

A p r i l 2 0 1 2 . 0 1

を考える



【工学資源学部】

厳しい論文指導で知られる工学資源学部の井上浩教授(知能情報通信工学講座)がこの春、秋田大学を退職する。この年も、十一人が井上教授の卒論指導を受ける。「厳しさ」の背景にある想いを聞いた。

毎年、新しい年を迎えると、学生たちの卒業論文への取組みも佳境を迎えます。下痢になる学生も出てきます。もがき苦しみますが、学生が驚くほど急激に成長する時期でもあります。この成長を実感できるのが、教員としての楽しみ、醍醐味でもあります。

私自身は、この春で秋田大学での教育・研究生活に区

切りをつけます。「卒業」ですね。着任は一九八〇年でしたから、この間に三百六十人の卒業論文、六十一人の修士論文の指導をしました。修士論文は五人でした。修士論文、博士論文は別として、

卒業論文には当然ながら個人差が大きい。蓄積した基礎力が問われ、そこに応用力(アイデア)も問われるからです。

学生にとって「卒論」は、ある意味で新しい発見と向き合う大切な機会であると考えています。もちろん研究においての発見だけでなく、自分自身にとっても転機となる発見のチャンスになります。

大学という守られた世界を離れ、社会に挑む四年生は、文字通り転換期に位置しています。大学で何を専門として学んでいても、学んだことをそのまま社会で継続して活かせる人は少ないでしょう。学んだことをベースにしながらも、常に応用して業務にあたらないければならない。

卒論は、その助走訓練ともいえます。テーマに取組みながら、壁にあたる。問題点の発見ですね。そして解決の方法を懸命に探る。仕上りとして卒論の発表を行います。

ですが、このプレゼンを通じて相手に伝えるということも経験する。その過程で我々教員とも真剣に向き合うことになる。学生だけでなく研究者もですが、常に社会との接点を持つことが大切なんです。そして専門以外の分野にも興味を持ち、視点を多様化させることを心がけなければいけない。

科学は批判から始まる、と学生たちに話しています。批判というのは、物事に対して別の見方をするということ。批判を受けた側は、その指摘(批判)に対して、応えるように努力をする。その過程でアイデアがでてくるのです。

そして常識という概念についてでも考えて欲しい。常識とはある一定の条件下の中



ですが、このプレゼンを通じて相手に伝えるということも経験する。その過程で我々教員とも真剣に向き合うことになる。学生だけでなく研究者もですが、常に社会との接点を持つことが大切なんです。そして専門以外の分野にも興味を持ち、視点を多様化させることを心がけなければいけない。

科学は批判から始まる、と学生たちに話しています。批判というのは、物事に対して別の見方をするということ。批判を受けた側は、その指摘(批判)に対して、応えるように努力をする。その過程でアイデアがでてくるのです。

そして常識という概念についてでも考えて欲しい。常識とはある一定の条件下の中

しまいますが、私自身の卒論も、その後、研究者の道に進むにあたっての大きな転機でした。今も感謝し、鮮明に覚えているのが先生や先輩たちと議論したこと。時には乱暴な言葉を使ったり、悔しい思いをしたりもしましたが、切磋琢磨したことが刺激になった。人を批判(指摘)するためには勉強しなければならなかったし、批判を受けたら懸命に糸口を探して、解決しようと思っ

た。あらゆる意味で、大学生活の集大成でした。

卒論は学生だけでなく、教員にとっても体力のいる仕事です。でも、真剣に向き合うことで、双方に何者にも代え難いものが生まれ、その先につながるべく

【医学部】

医学科には「卒業論文」はありません。この時期、卒業論文の作成に明け暮れている他学部の学生からすると、一見うらやましく思えるかもしれない。しかし、医学科には厳しい「卒業試験」があるのです。

9月から10月にかけて、2週間ごとの4回に分けて実施され、総問題数は1000問以上。センター試験問題に似たマークシート式の問題で出題されます。医学科で学んできたこと全てが出題範囲になることから、習得した知識が試される卒業試験が、医学科でいう「卒業論文?」に値するのかもしれない。

朝起きるのが苦手という吉澤さん。試験期間中の2カ月間は9時過ぎに起床。朝食を食べ、10時頃から本道キャンパスの附属図書館分館で勉強を始める。食事をする以外は図書館で過ごし、体力があるときは、閉館の24時まで勉強するという図書館漬けのスケジュール。試験期間中の一日の勉強時間は、7時間から12時間くらいだったといいます。

自宅での個人勉強の方が集中して勉強できる気がし



集中して勉強できる気がし

集中して勉強できる気がし

特集

「卒論」

【教育文化学部】

教育文化学部のほとんどの学生には卒業論文の提出が卒業要件として課されています。提出期限は1月31日まで。1月に入ると、沢山の参考書を広げてパソコンに向かう学生の姿が図書館や研究室で目につきます。研究室によってテーマの設定や論文作成の方法は異なり、出来上がった卒業論文も20枚程度ものから100枚以上まで様々。枚数が多ければいいというものではありませんが、学生が約1年掛かりでまとめた力作が提出されます。「早く完成させたい」「卒論を提出したら、思う存分遊びたい」。自由な学生生活の最後に課された最大の関門と言えるかもしれません。

教育文化学部のなかでも実技系の専攻には卒業論文だけではなく、卒業制作もあります。どんな大作が誕生するのでしょうか。

「卒業制作だから良い作品を作るということではありませぬ」そう話すのは、美術教育講座の伊藤隆教授。「学生達は入学してから卒業するまで、作品を作り続けています。その一枚一枚が常に勝負。卒業制作だから良い絵を描くんだという気持ちではなく、描くかぎりは良い絵を描きたい。学生はそう思っ

てキャンパスに向かっていきます」。実際に卒業制作に取り組んでいる齊藤美香子さんも「卒業制作だからとか、集大成とかいう気持ちが無いわけではないですが、絵に向か

う気持ちはそんなに変わりませぬ。この絵を自分の納得のいくところまで描き込みたい。そう思っ

て描いています。齊藤さんは午前中に卒業論文、午後から卒業制作に取り組み、朝から夜までほぼ1日、土曜日も関係なく制作にあたっています。100号のキャンバス1枚を完成させるのにおよそ3ヵ月。卒業制作となる今回の作品も1月末の提出に向けて11月から準備をしてきたそうです。「疲れることはありますが、筆を握るのが嫌になることはありませぬ」と話しています。

絵画を学ぶ学生は年間に平均3〜4枚の作品に取り組みますが、4年間で学生達に変化はないの

うか。やはり4年生で描いた絵が一番良い絵になるのではという質問に伊藤教授が答えてくれました。

「絵の評価をする時、『上手い・下手』という言い方と、『良い・悪い』という言い方があると思います。上手い・下手で見たら確実に上手くなっている。でも良いか、悪いかというのはまた別の基準なんです。それはある意味積み上げていくのが難しいこと。技術は1年生の頃より4年生の方が上でも、根本は良い絵を描くことが大事。上手い絵を描くことではない。だから1年生でも良い絵はあるし、2年生でも良い絵があります。4年間を通して制作活動を行う実技系ならではの話かもしれません。

一般的に卒業制作は在学



ますが、図書館での勉強には、わからない時、参考文献ですぐ確認できることの他に、友人にすぐ相談できること。また、質問されて答えることによって自分の理解が深まり、人に教えることが自分の為になるなど、メリットがあるそうです。「個人勉強では、途中でくじけそうになるのだけれど、友人の勉強振りを目のあたりにすることも刺激になり、頑張りました」と話します。

卒業試験を終え、今は医師国家試験に向けて勉強中。「卒業試験のほうが、医師国家試験よりも難しい。こんな難しい試験に合格したのなら、油断しなければ国家試験に合格できると、秋大医学生は思っている。本大会より予選の方が厳しいっていうじゃないですか」と吉澤さんは話してくれました。



附属図書館分館、最終学年は24時まで利用可能

医学部では、学生の国家試験の支援として、勉強の場を提供。本道キャンパス内の附属図書館分館を平日、休日を問わず医学部の最終学年(医学科6年次と保健学科4年次)は24時まで利用できます。

吉澤さんにお話を伺ったのは、1月の日曜日。休日にもかかわらず国家試験に向けて勉強する医学科・保健学科の学生で、附属図書館分館は満席でした。

医学部では、卒業資格がゴールではなく、その先にある、国家試験合格が最終目標です。2月の試験に向けて、ラストスパークがかけられています。

期間の集大成であると同時に、その後の制作や就職活動に少なからず影響を与えるものと言われますが、齊藤さんは進路について「もう少し絵の勉強を続けたい」と話します。「美術の先生になりた

の先輩が絵に向かう姿勢を見て、自分ももっと頑張らなきゃと刺激されました。齊藤さんの制作活動はこれからも続いていきそうです。

見があり、もっと研究を続けたい、絵を描いていきたいと将来を見直す時間が増えるということかもしれません。論文や作品の提出は卒業要件の一つですが、完成されたもの以上に、作り上げていく過程にこそ意味があり、その活動こそが4年間の集大成となるのではないのでしょうか。



秋田大学教育文化学部 美術科卒業記念展

- 開催期間: 2月24日(金) ~ 2月28日(火) 5日間
10:00~17:00
(初日12:00開始 最終日15:00終了)
- 会場: 秋田県立美術館 ※入場無料
- 展示作品: 洋画・日本画・彫刻・木工・構成・美術教育 全22点
- お問い合わせ: 秋田大学美術準備室 ☎018-889-2560

「秋田わか杉科学技術奨励賞」 大学院工学資源学研究科から2名選出

優れた若手研究者を、県が表彰する「秋田わか杉科学技術奨励賞」に、秋田大学大学院工学資源学研究科から2名が選ばれました。今後、秋田県の新産業・新事業の創出へ活躍が期待される両先生に受賞研究についてお話を伺いました。

砕石業において発生する砕石ケークを原料とした高機能材料の開発 環境応用化学科

助教 和嶋 隆昌

21世紀において「資源の枯渇」や「環境保全」に関する技術開発は重要な課題であります。特に国土が狭く資源に乏しい日本では、現在未利用の廃棄物などを効率良く資源として利用できるプロセスの開発が必須です。そのような中で、私は様々な廃棄物を原料として機能性材料を作成し、環境浄化などに利用する方法を研究してきました。今回の受賞した研究もその一つになります。

今回の研究で対象としている砕石ケークは、砕石業において砕石生産とともに大量発生する副産物です。その量は砕石生産量の3%にあたり、ほとんどが埋め立て処分されています。しかし、近年の処分場の不足による処理費用の増大や循環型社会形成推進基本法の制定などにより資源を有効利用する新たな方法が求められています。これまで砕石ケークは化学

反応性に乏しいため、化学原料として用いる研究はあまり行われていませんでした。そのような中で、私の研究では、前処理としてアルカリ溶融処理を取り入れたプロセスにより砕石ケークの反応性を高めることで、砕石ケークを原料としてゼオライトなどの機能性材料を合成することに成功しました。これらの結果を受けて、現在、砕石業・セメント業・鉄鋼業における砕石ケークやスラグの有効利用プロセスについて共同研究などを行っており、また、震災の被害を受けた地域でのガレキ処理についても本研究成果が応用できると期待されており、NEDOの復興支援事業・石綿含有震災廃棄物無害化及び再資源化処理の実証研究開発に分担研究者として携わっております。

私は、「8割反対の技術を8割賛成の技術にし、企業が動く起動力を提案すること」「そのような挑戦や努力ができる人材を育てること」が大学の研究者・教員としての仕事であると考えています。今回の研究も当初は賛同する方が少ない状況でしたが、現在は様々な分野の企業から声をかけられ共同研究などを行う状況になりました。

ナノ磁性体を用いた情報知能材料の開発―次世代超高密度磁気記録用ビット・パターン・メディアに関する基礎・応用研究― 材料工学科

助教 長谷川 崇

近年のインターネットの急速な進展と、震災等による不意なデータ損失を防ぐ観点から、情報データをネットワークに保存するクラウドコンピュータに注目が注目をされています。今後インター

ネットを流通する情報量は爆発的に増加するものと予測され、これに伴いデータセンターでの消費電力量は飛躍的に増大することが懸念されます。この消費電力を抑制するためには、主要記録装置であるハードディスクドライブ(HDD)の高密度記録化を図り、必要台数を削減することで、単位情報量あたりの消費電力を低減することが最も有効な手段です。私たち石尾・長谷川研究グループは、ナノ磁性体を基板上に規則配列させた構造をもつビット・パターン・メディア(BPM)に関する基礎・応用研究を行い、HDDの大容量化・高記録密度化に挑戦しています。私の研究は現在NEDO若手グラント(11B07008d)の助成を受けており、イオン照射により誘起される強磁性・反強磁性相変化をBPMに

対して世界で初めて応用したもので、従来技術に比べてナノ磁性体の受ける加工ダメージが大幅に低減されることを明らかにしました。これにより、より一層のHDDの高記録密度化が可能になると同時に、製造プロセス数が半減するので、より大きな省エネ効果が期待できます。今回の受賞は、昨年11

月にアメリカで開催された国際磁気会議でのBest Presentation Awardに続き、私にとって今年度3件目の受賞となりました。これら受賞は励みになると同時に、研究活動を力強く後押ししてくれる原動力になっています。私の研究やこれらの受賞は、周囲の方々の事務的・実験的サポートがあつてこそですので、関係者の方々には常日頃から非常に感謝しております。



和嶋 隆昌 助教



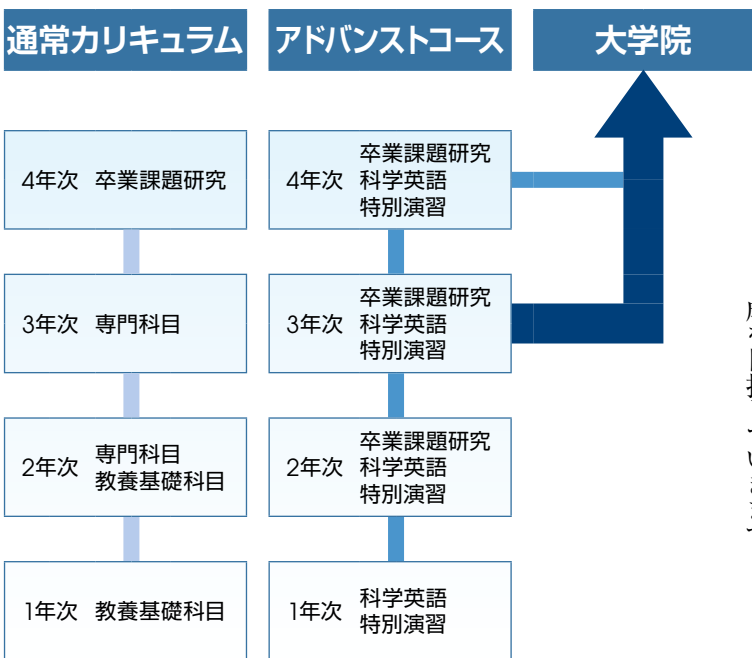
長谷川 崇 助教

平成23年度 文部科学省「理数学生育成支援事業」に採択決定 出る杭を伸ばす「ヘリックスプロジェクト」とは？

『出る杭は打たれる』才能や手腕があつて抜きん出ている者は、とかく憎まれる』ということわざがありますが、秋田大学ではそんな出ている杭を伸ばすプロジェクトを進めています。

平成23年度文部科学省「理数学生育成支援事業」に秋田大学工学資源学部から「独創的発想に富む科学者育成プログラム」出る杭を伸ばすヘリックスプロジェクト」が採択されました。

プログラムでは工学資源学部にアドバンストコースを設置。物理、化学、生物、地学、数学(情報)に関して、入学時の成績や本人の希望を基に最大20名を特別選抜します。選抜された学生は海外の大学訪問や2年次からの研究室配属(※通常4年次)、3年次から大学院講義の受講、及びネイティブ英語教員による科学英語を4年間必修とします。また優秀な学生には早期卒業制度を利用し、3年次修了後の大学院入学も許可するなど、プログラムを通じて、国際的に活躍できる独創性に富んだ研究者の育成を目指していきます。



「心と体のケアを」 保健学科の取り組み



東日本大震災から間もなく1年。被災地では今も、ここに暮らし、復興に向かって頑張っている人々への支援が課題となっています。

秋田大学医学部保健学科では、国立大学協会の平成23年度震災復興・日本再生支援事業に参加。「仮設住宅利用者の心身の健康をサポートする人材養成支援」を行っています。

これまで秋田大学をはじめ多くの大学や医療機関などが被災地の各避難所で支援にあたり、一定の成果を上げてきました。そんな中で、最近の仮設住宅への支援ニーズ調査では、住民同士の関係性が不足していることから心身の健康や今後の生活設計についての不安などを訴えるケースが目立っています。

保健学科が進めているのは、岩手県釜石市の仮設住宅などに暮らす人々を対象にした、保健学科の教員による健康教室です。心身の健康回復を目的に「自分の心と体を見つめてみよう!」をテーマとして、各教員の専門性を活かした活動を行っています。健康に関する講話と軽い体操やセラバンドを用いた体操、香りの効果を取り入れたマッサージ、ちぎり絵で葉（しおり）を作るなどの様々な活動を、集まった住民の方たちと行っています。これらは、看護学専攻、理学療法学専攻、作業療法

学専攻からなる保健学科ならではの試みであろうと言えます。

現地で健康教室を開催した煙山晶子講師は「最初は被災した人たちの状況があまりに多様で、何をお話ししたらいいかわからなかった。しかし、実際にいざ行ってみると釜石市の保健師さんや参加を呼びかけてくださった地区の人たちの協力もあって、会場に集まる人たちの笑顔と共に、その思いは無くなっていました」と話します。

「高齢者は特に生活のリズムを崩しやすい」と専門分野である老年看護学の観点から生活のリズムに着目。健康教室ではできるだけ分かりやすく、語りかけるような形式でスライドを用意し、参加者からの質問にも答えながら話を進めたそうです。

「私たちは、体と心の両面を考慮して支援することを大切にしています。体を動かしてもらいながら心を看る、心の部分に触れながら体の動きへの影響を考えます。保健学科の各教員が専攻の枠を越え、共に協力し合っていることが成果をもたらしているように思います」と言います。

浅沼義博保健学科長は「健康教室を通じて、被災された方々がいかに大きなストレスを受けていたのかが分かりました。これからもニーズがある限り支援を続けていきたいです」と話しています。



健康教室の取り組み状況(平成23年12月現在)

【第1回】平成23年10月7日(金)
釜石市保健福祉センター
担当: 佐々木久長准教授

【第2回】平成23年11月21日(月)
釜石市保健福祉センター
担当: 煙山晶子講師

【第3回】平成23年11月22日(火)
釜石市天神町仮設団地
担当: 煙山晶子講師、猪股祥子助教

【第4回】平成23年11月26日(土)
釜石市保健福祉センター、
釜石市天神町仮設団地
担当: 佐々木久長准教授

【第5回】平成23年11月29日(火)
釜石市大平集会所
担当: 湯浅孝男教授、若狭正彦助教

【第6回】平成23年12月6日(火)
釜石市天神町仮設団地
担当: 齊藤明助教

【第7回】平成23年12月10日(土)
釜石市松原地区
コミュニティ消防センター
担当: 長谷部真木子准教授、
工藤由紀子助教

【第8回】平成23年12月12日(月)
釜石市浜町集会所
担当: 津軽谷恵助教、高階淳子助教

【第9回】平成23年12月13日(火)
釜石市大只越集会所
担当: 津軽谷恵助教、高階淳子助教

【第10回】平成23年12月21日(水)
釜石市天神町仮設団地、
釜石市望洋ヶ丘集会所
担当: 浅沼義博保健学科長、
佐々木久長准教授

【第11回】平成23年12月22日(木)
釜石市燐石地区集会所
担当: 煙山晶子講師、吉田倫子助教

研究室から

理学療法士と臨床心理士の2つの「顔」を持つ 人を支えるエキスパート

上村 佐知子 助教 Uemura Sachiko

大学院医学系研究科 保健学専攻 理学療法学講座



秋田は「温泉王国」。乳頭温泉、玉川温泉など全国に知られる温泉が点在する。

上村佐知子助教らの研究グループはこのほど、温泉が与える入眠・熟眠効果を科学的に検証し、睡眠改善に効果があることを裏付けた。これまで実験でその効果を科学的に証明されていなかっただけに、大きな成果と言える。

上村助教の専門は理学療法学。理学療法はリハビリテーションの一つで、運動機能の維持・改善を目的に運動や電気、温熱などの物理的手段を用いる治療法。温泉療法も理学療法の範囲となる。理学療法士である上

村助教は、温泉だけでなく、家庭でできる人口炭酸泉についても「湯冷めしにくい」という良好な結果を得た。また、高齢者における睡眠薬導入後の運動・認知機能の変化について研究するなど、幅広く研究を行っている。

上村助教にはもう一つの「顔」がある。それは、臨床心理士としての活動である。

患者さんと接するほか、スクールカウンセラーとして秋田県内の公立学校を回っている。さらには、東日本大震災で心にダメージを受けた児童生徒のサポートのために、臨床心理士などで結成された「いわて子どもたちのサポートチーム」に

も参加。被災地の公立学校で支援にあたってきた。「秋田県の臨床心理士の数はまだ少ない。臨床心理士の活動にも力を入れていきたいです」と話す。

スクールカウンセラーとしての経験を活かし、学生へのサポートも行っている。上村助教が所属する理学療法学講座の学生は、3年生から4年生にかけて約半年間の臨床実習を行っている。学生にとって他施設での長期間に渡る実習は、予想以上に大変なものだという。

「学生は約半年もの臨床実習を終えてくると見違えるほどに成長します。学生たちが成長する姿や卒業生が活躍している姿を見るとうれしくなります」と話す。

理学療法学講座ではコミュニケーションスキルやストレスマネジメントの向上を図るために、臨床実習前に「医療コミュニケーション論」を設けており、上村助教が担当している。

「理学療法士は人に対する仕事なので、心くばりができる学生になってほしいですね」と学生たちに期待を寄せている。

「まなびの総合エリア」

平成22～24年度の3年間にわたる文部科学省特別経費プロジェクト「まなびの総合エリア」も、折り返し地点を通過したところです。これまでの主な事業実績と今後の方向性について、教育文化学部附属教育実践研究支援センターの神居隆特任教授にお話を伺いました。

「まなびの総合エリア」の主な役割は？

3つの役割に分類されます。
(1) 大学と学校を教員養成、学校支援、教員支援の面からサポートをする場
(2) 学生・大学院生、卒業生、現職教員、大学教員、附属学校教員が協同で学び合う場
(3) 「あきた教職・net」というポータルサイトで、教職に関する情報をweb上で集約し、相互に情報交換する場
この中でより実践的な力を持つ教員の養成と、現職教員のキャリアに応じた高度な教職研修に資するよう、多岐にわたった取り組みがなされています。

教員養成に関する主な取り組みは？

「あきた教職・net」を活用して教職に対する意識の変化や自己評価などを継続的に記録するとともに、初期段階から継続的に面接を実施し、それらの結果を蓄積し、就職後も教員としてのキャリアに応じた支援を行えるよう、教職ポートフォリオの管理・作成支援を行っています。この「あき



写真① 教職実践演習のひとこま

た教職・net」から学校ボランティアの募集の閲覧及び手続き等が可能となっています。更に、平成25年度から本格的に実施される教員養成課程の必修科目「教職実践演習」(写真①)を試行しています。卒業後教員になる学生を対象として、赴任後1カ月の間に経験すると予想される様々な事象に対する対応力を養成する内容となっています。教育委員会の指導主事や現職教員の講義なども含め、演習形式を大幅に取り入れています。

教職研修及び学校支援に関する新たな取り組みは？

大学教員派遣事業(写真②)を立ち上げています。これまで、大学教員個人に対しての依頼を別にする、本学部教員が学校に向いて教職員を対象に研修会を行うことはあまり多くはありませんでした。この事業は3つの内容に細分されます。
(1) 学校の研究会等で教員を支援する「研究推進アドバイザー」
(2) PTAや地区の研究会などで学校運営を支援する「学校運営支援パートナー」
(3) 児童生徒の興味・関心を高めるため直接授業を行う「出前授業」
県内の小・中学校、高等学校、特別支援学校、教育委員会、教育研究団体等からの派遣要請に基づき、その内容をエリア内で検討を加え、日程等も調整し最もふさわしい教員が支援のため派遣されることとなります。今年度(12月末現在)は60件以上に延べ100人の大学教員が学校に向いています。また、教員に向けた高度な研修の機会を提供するために、大学や附属学校園

から発する提案型のオープン研修会を実施しています。昨夏に実施した「はやぶさ」の講演会では、併せて各教科のオープン研修会を本学部内で実施しています。今年度は、東日本大震災の発生に伴い、学校教員にも放射線に関する知識・理解が求められることになりました。折しも、中学校の学習指導要領の改訂で、放射線に関する教育内容が新たに加わっており、中学校の理科教員にはそのための準備が必要となっていました。このような緊急を要する事態を鑑み、本学部と県教育委員会の共催で、本学



写真③ オープン研修会



写真② 大学教員派遣事業

部教員を指導者とする放射線に関するオープン研修会を企画し、10月に実施しました。このほかに、特別な支援を必要としている児童生徒への対応として、学校に配置されている支援員及びそのクラスの学級担任を対象とし、普通学級の中で指導を行うための実践的な方法に関する研修会を、北秋田、横手の2つの分校を含めて県内6地区で開催(写真③)しています。両分校では、小学校の英語指導に関するオープン研修会も開催しました。

教師力の向上を支援するためのプロジェクト？

旧町村の中学校区程度の地区を指定し、地区内の中学校と小学校の教員研修を合同で行うプロジェクトを進めています。先行している大仙市・仙中学校区の場合、昨年度からの実施で、中仙中学校、豊成中学校、清水小学校、中仙小学校、豊川小学校、そして豊岡小学校が参加しています。授業研究会には大学教員が指導者として参加しますが、当該校の教員だけではなく、地区の他の学校の教員も授業の合間に参加し、互いに研鑽を積んでいます。当地区では、「全国学力学習状況調査の結果の活用」を各校の共通実践課題として取り上げ、教師力の向上・伝承に一つの方向性を示しています。このことについては、今年1月に実施した「学力向上フォーラム」で全国に発信しました。

今後の方向性は？

「まなびの総合エリア」は池村教育文化部長の指導のもと、石黒プロジェクトの事業推進委員長を中心に学部の教員で組織される実施委員会が運営にあたっておりますが、実施計画書に明示されている「学びの総合マネージャー」「クロスオーバー・ディレクター」そして「伝承・創造スーパーバイザー」の3つの役割を担うため、3名の実務家教員が参画しています。

このことを契機として、秋田県教育委員会及び秋田市教育委員会と本学部の三者の連携を深めるとともに、北秋田、横手の両分校の活用も視野に入れながら、プロジェクトの最終年度に向けて、秋田県民の子弟により豊かな教育の場を提供できるよう、実施委員会の総力を挙げて教員養成と教職研修の充実・高度化に寄与して参りたいと思います。

実務教員を紹介



神居 隆 特任教授

伝承・創造スーパーバイザー 秋田の学力・教師力などを分析し、それをモデル化・体系化して、学生の教師体験教育にあたる。



石橋 研一 客員教授

学びの総合マネージャー 卓越した教職体験をもとに、学生及び現職教員の教育相談にあたる。



斎藤 孝 客員教授

クロスオーバー・ディレクター 普通教育と特別支援教育の双方に卓越した教師力を有し、学生の教職演習や現職の教員研修にあたる。

〈主な経歴〉 元秋田県教育庁特別支援教育課長、栗田養護学校長、秋田養護学校長、ゆり養護学校長、能代養護学校長

〈主な経歴〉 元秋田県教育庁教育次長、大館鳳鳴高等学校長、秋田明徳館高等学校長、秋田東高等学校長

詳しくは「あきた教職・net」で検索
<http://gpts.ceip.akita-u.ac.jp/yousyoku/>

ニュース & トピックス News&Topics



ベンチャーインキュー ベーションセンター 増築竣工記念式を 挙

秋田大学手形キャンパスで、ベンチャーインキューベーションセンターの増築竣工記念式を行いました。記念式では、西田理事(研究・産学連携・情報担当)兼ベンチャーインキューベーションセンター長が「秋田大学の中で秋田駅に一番近い場所であり、まさしく大学の顔として、産学連携を推進していきたい」と挨拶。続いて、後藤理事(財務・施設・環境担当)が「秋田県内に留まらず日本の産学官連携ネットワークの拠点となることを目指してほしい」と挨拶しました。その後、西田理事、後藤理事、齊藤産学連携推進機構長によるテープカットが行われました。

保健管理センター増 築竣工式を挙

秋田大学手形キャンパスで、保健管理センター増築竣工式を行いました。竣工式では、吉岡理事(教育・学生担当)が「これまで保健管理センターは手狭であったが、今回の増築で快適な環境に生まれ変わった。保健管理センター職員の皆さんには学生及び教職員の心身の健康のために力を注いでいただきたい」と挨拶。続いて、苗村保健管理センター所長が「増築されたスペースを有効活用し、学生及び教職員の皆さんのためにより良い運営を目指していきたい」と挨拶しました。



平成23年度大学改 革シンポジウム「地 域課題解決のア プローチと地域に 育つ学生力」秋 田大学北秋田分校 事業」を開催

平成23年度大学改革シンポジウム「地域課題解決のアプローチと地域に育つ学生力」秋田大学北

秋田分校事業」を11月21日、北秋田市交流センターで開催しました。シンポジウムでは平成22年11月に地域の活動拠点として設置した「北秋田分校」の実践活動事例を紹介。これまでの取り組みや今後の課題について秋田大学の教員や学生、北秋田分校長、秋田北鷹高校生が発表しました。



美郷町商工会と産 学連携に関する覚 書を締結

美郷町商工会と秋田大学は11月29日、産学連携に関する覚書を締結しました。締結式には秋田大学から西田理事・齊藤産学連携推進機構長をはじめ、機構や学術研究課の関係者7名が出席。美郷町商工会からは近藤道哲会長をはじめ副会長や役員の方々、また来賓として松田知己美郷町長・高橋猛町議会議長らが出席しました。



また、すでに美郷町商工会と秋田大学との間で、教育文化学部の教員・学生が中心となった「美郷町地域商業活性化ビジョン検討事業」の共同研究が行われており、美郷町の発展のために秋田大学への期待が高まっています。

締結式後に行われた商工会員交流の集いでは、西田理事による「秋田が元気になるために」秋田大学ができること」と題した記念講演を行いました。

留学生体験事業「日 本のもちつき」を実施 する「留学生体験事業」日本のもち



つき」を12月22日、秋田大学手形キャンパスで開催しました。秋田大学で学ぶ外国人留学生に、日本の伝統文化を理解してもらうことと、日本人学生・地域住民と交流を深める機会を提供することを目的に毎年開催しています。



「秋田大学総合技 術部第三回テクノ フェスタ」を開催

大学で働く技術系職員の仕事を知ってもらおうと、秋田大学は、1月7日に秋田拠点センターアルヴェで「秋田大学総合技術部第三回テクノフェスタ」体験して広がる科学の世界」を開催しました。このイベントは普段、教員や学生の教育研究活動のサポートを行っている技術系職員の仕事を広く知ってもらう、またその専門技術を地域に還元することを目的に、一昨年度から開催。3回目となる今年は過去2回のイベントで参加者に好評だった技術体験型の企画、主に児童生徒が楽しみながら理工

系に興味を持ってもらえるような企画を実施し、会場は多くの家族連れで賑わいました。会場には13種類の体験コーナーを設置。ペーパーウエイの作成や化石の発掘体験、身の回りの放射線測定といったコーナーが用意され、参加した子どもたちは実験や工作を通じて科学の魅力に触れました。

教育文化学部附属特 別支援学校高等部の 渡邊大輔さん、イン ターハイに出場

群馬県を会場に開催された全国高校総体スケート・アイスホッケー競技選手権大会(インターハイ)のスピードスケート男子500、1000m競技に秋田大学教育文化学部附属特別支援学校高等部の渡邊大輔さん(1年)が出場しました。県内の特別支援学校に在籍する生徒がインターハイに出場するのは初めてです。

渡邊さんは中学部1年生の時に県スケート協会主催の教室に参加したことがきっかけで競技をはじめ、高等部1年生からは秋田中央高校のスケート部の練習にほぼ毎日参加。平日の放課後と土日に、部員と一緒に体力トレーニングやローラースケートを使った練習、スケート場での練習に取り組んできました。昨年12月に山形市で開催された東北高等学校スピードス



ケート選手権では500mで19位、1000mで24位の成績を残しています。これからの目標について渡邊さんは「もっとスケートがうまくなって、次は国体を目指したい」と話しました。



大仙市商工会と産 学連携に関する覚 書を締結

大仙市商工会と秋田大学は1月20日、産学連携に関する覚書を締結しました。締結式には秋田大学から齊藤産学連携推進機構長・熊谷副理事をはじめ、機構や学術研究課の関係者6名が出席。大仙市商工会からは高貝芳彦会長をはじめ役員や会員の方々、また来賓として栗林次美大仙市長、小松隆明秋田県議会議長らが出席しました。

大仙市商工会と秋田大学との連携協力事項として、秋田大学の研究成果等のシーズと大仙市商工会員企業のニーズのコーディネート、大仙市商工会員企業等からの技術相談に対する支援、観光資源に係る産業活性化の支援及び産学連携等に関するセミナー・シンポジウムの開催など幅広い領域で連携を進めていきます。

ものづくり創造工学センター

学生自主プロジェクトの紹介

センター長

神谷 修

Kamiko Osamu

秋田杉プロジェクト

2012年がスタートし、いよいよ学生自主プロジェクトの活動も最後の成果発表会に向けて大詰めとなって参りました。そんな中、うれしい報告がありました。学生自主プロジェクトの一つである秋田大学ヨーグルト開発プロジェクトがなんと2011年度の「パテントコンテスト」に入賞(左記事参照)いたしました。受賞したみなさん、本当におめでとうございます。他のプロジェクトも多

くの成果が出てきていますので、記事を読まれている皆様も、ぜひ年度末の成果発表会を楽しみにしてください。

さて、今回ご紹介するのは「秋田杉プロジェクト」です。秋田杉プロジェクトでは昔からの技術と最新の加工技術を融合し伝統工芸品をリメイクしようというプロジェクトです。その詳細を工学資源学研究所機械工学専攻後期博士課程1年の榊田智実君に紹介してもらいましょう。「秋田杉プロジェクト」

の榊田です。さて、突然ですがここでクイズです。秋田県全面積のうち何%が森林によつて構成されているでしょうか? 30%? 50%? 正解はなんと72%です。その多くは秋田杉によつて構成されており、その「森林が多いのはいいことだな」と思われるかもしれませんが、そうではありません。樹木は年を取ってくと酸素排出量が減少し二酸化炭素排出量が増加します。そのため、ある程度年を取った木は定期的に間伐を行い、手入れをす

る必要があるのです。効率的に間伐を行うためには、間伐した材木を消費していく必要がありますが、現在木材の消費率は減少の一途をたどっています。そこで本プロジェクトでは木材消費を促すとともに、職人による伝統技術を最新の工作機械で再現・量産することはできないかということから発足しました。また、木材を消費することがエコ活動にも繋がることがアピールすること活動理由の一つとなっております。

現在、秋田の伝統工芸品の「組子細工」の再現に挑戦しています。組子細工とは、留め金や接着剤等を一切使用せずに木材のはめ合わせのみで製作する工芸品です。図面で理論上の寸法を出すことは非常に簡単に出せるのですが、その値で組み上げるとはめ込みがキツい、または緩いという部品が多々できてしまいます。このはめ込み度合いを一つ一つ調べ、図面上で調整に調整を重ね、現在ではある程度の精度を得ることができました。こ

れをより煮詰め、完成品との差異を測定し今後の活動に活かすというのが今年度の目標です。秋田杉プロジェクトではメンバーを募集しています。興味を持つ方、やってみたいというアイデアをお持ちの方、ぜひ私たちと一緒に秋田杉を加工してみませんか。



Column

文章力up



三十年後の自分の姿を書いて下ろす。

ある企業のエントリーシートに、そんな設問があったそうです。受験する女子学生が頭を悩まし、相談を受けたゼミの先生が苦悩を深め、「どうしたものか」と問われました。さて、どう答えましょう。筋肉が贅肉に変わり、いつしか白髪も交じるようになった。見る影もなく変化したのは体型。あ、年齢を重ねた……。

先生と雑談をしているうちに、福祉系の学部所属するその学生は先日、福祉施設で実習をしてきたことが話題になりました。その実習先に「三十年後の自分」がいたのではないのでしょうか。五十代の、母親の年代になった時の自分ですね。これは想像ですが、モリモリと働いている素敵な女性がいたのではないのでしょうか。

その「先輩」は、どんな仕事ぶりだったのでしょうか。表情は、動作は。実習中の学生からみると、すべてが自然な立ち居振る舞いで、流れるような動きだったのではないのでしょうか。その時々、どんな言葉で人に話しかけていたのでしょうか。とまどう自分との対比。「ああ、素敵だなあ」と思いませんか。そこには経験でしたか。そこには経験

を積み重ねたプロの姿があったはず。三十年後の姿。身近に出会った「先輩」を「目標の人」として、描いてみることも可能ではないでしょうか。かなり説得力のある回答になるはず。エントリーシートでは「場面」が大切、ということとを以前にもこの欄で書きました。なぜか。繰り返しになりますが、その場面を選んだこと、その場面の中の立ち位置、その時に考えたこと、場面の中でのあなたの姿が、読む側の想像力をかきたてるからです。これまた繰り返しになりますが、試験官はあなたがどんな人なのか、可能性を想像したいのです。取り上げる場面も、できれば「日常」の風景に近い方が良いでしょう。海外旅行をした経験よりは、毎日の通学路で感じたことを書

く方が、より等身大のあなたを伝えることができます。突然ですが、頭の体操です。あなたが一言で自分を紹介するとしたら、どんなキャッチフレーズ(見出し)になりますか? ちよつと考えてみましょう。

例えば「燃える闘魂アントニオ猪木」や「イチロー越えた俺は二浪一留 秋田大学〇〇」「バイトで知った社会の厳しさ 秋田大学〇〇」みたいなものです。結構、難しいですね。しかしエントリーシートの書き込みスペースでは、見出しになるぐらいのポイントをつかんでないと、書ききれなくなり、消化不良になってしまうのです。

秋田大学企画広報課長

(元朝日新聞記者)

高橋 康弘

秋田大学ヨーグルト開発プロジェクト

「2層ヨーグルト」で特許取得を目指す

秋田大学ヨーグルト開発プロジェクトが、文部科学省、特許庁、日本弁理士会(独)工業所有権情報・研修館主催の平成23年度パテントコンテストの大学部門で入賞し、特許出願支援対象者に選定されました。秋田大学ヨーグルト開発プロジェクトは、ものづくり創造工学センターで行っている学生自主プロジェクトの一つです。



秋田大学ヨーグルト開発プロジェクトの皆さん

パテントコンテストとは、高校や高等専門学校および大学の学生を対象に、知的財産権制度の理解を促進することを目的に毎年開催されています。優れたアイデアは特許取得のための支援(特許取得の費用、弁理士助言等)を無料で受けることができます。

秋田大学ヨーグルト開発プロジェクトの「2層ヨーグルト」は、米のヨーグルトと豆乳のヨーグルトの2層できており、米と大豆との相乗効果で栄養価が高いことが特徴です。

代表の工学資源学部4年高橋将太さんは「このプロジェクトを通し、良い体験をすることができました。ご指導していただいた先生方、そしてプロジェクトの後輩たち、提携してくださ

た企業の皆さんには大変感謝しています。これからはプロジェクトの後輩たちに特許取得を目指してもらい、今年中には商品化できるように頑張つてほしいです」と話していました。

今後は、弁理士のアドバイスのもと、学生自身で特許庁への出願を行い、特許取得を目指すこととなります。

留学生へ日本語指導を

長安大学外国語学院／日本語学科長

楊 小雁 助教



初めて秋田の土を踏んだのは、昨年の10月30日でした。夜の11時に着きました。が、北国・秋田は思ったより暖かかったです。

中国の古都・西安にある長安大学と秋田大学は、2010年に国際交流協定校となりました。両校間の交流が日本語教師から始まるという事は、長安大学日本語学科にとっては、非常にありがたく感じられました。2004年にできた長安大学の日本語学科はまだ若く、

初めての秋田の土を踏んだのは、昨年の10月30日でした。夜の11時に着きました。が、北国・秋田は思ったより暖かかったです。

中国の古都・西安にある長安大学と秋田大学は、2010年に国際交流協定校となりました。両校間の交流が日本語教師から始まるという事は、長安大学日本語学科にとっては、非常にありがたく感じられました。2004年にできた長安大学の日本語学科はまだ若く、

初めて秋田の土を踏んだのは、昨年の10月30日でした。夜の11時に着きました。が、北国・秋田は思ったより暖かかったです。

中国の古都・西安にある長安大学と秋田大学は、2010年に国際交流協定校となりました。両校間の交流が日本語教師から始まるという事は、長安大学日本語学科にとっては、非常にありがたく感じられました。2004年にできた長安大学の日本語学科はまだ若く、

日本の大学との交流が少ないです。秋田大学との交流の道ができたという事は、特に長安大学の日本語学科には意義あることです。日本語学科の学科長でもある自分が、日本語の教師として秋田大学へ交流に来る最初の一人となりました。雨が多く、変わりやすい天候が雪になって、冬の厳しさがつくづく感じているうちに、秋田大学ともなじむようになってきました。来て間もなく工学資源学部の井上浩教授から、中国の留学生学友会の会長を紹介していただきました。その会長さんは、私の研究室で日本語の個別指導ができると留学生の皆さんに紹介してくれました。そして、日本語がまだよくできていない留学生の個別指導が始まりました。まずは自己紹介の練習。頑張って日本語で話して、分からない言葉があつたらすぐにメモを取る。皆、まじめな学生で、個別指導を重ねているうちに自己紹介の内容がますます豊富になってきました。これから日本語の面接試験は大丈夫だろうと思っています。お互いによく理解するた

めに、工学資源学部電気電子工学科の研究室に行つて学生と話し合うこととなりました。中国文化や、古都西安及び長安大学について紹介し、学生からも秋田大学のことや日本文化について教わりました。

学生が興味を持つ食文化では、中日両方ともよく食べている餃子の相違点について学生に紹介しました。日本ではよく焼き餃子を食べますが、中国では水餃子を食べます。そして、焼き餃子といつても中国の焼き餃子は、ゆでた後の食べきれない水餃子に油をつけて焼いたもので、やはり日本のものとは違います。同時に学生たちからも教わったことでもあります。例えば、秋田の竿燈まつりの提灯は、一粒一粒のお米のようにして、収穫した後の喜びの気持ちを表すということや岩手県の名前の由来なども初めて学生から聞きました。どの研究室に行っても、男子学生が圧倒的に多いのは普段自分の面しているほとんど女の子の顔ばかりの日本語学科とはまったく逆で、雰囲気も違います。

秋田大学での暮らしは2月末までです。秋田大学にいる間の様々な経験を思い出に納め、帰ったらみんなに紹介し、これからは教員の交流だけではなく、秋田大学からの留学生と長安大学で会いたい。そして、長安大学の学生も秋田大学に留学し、多くのことを感じ、学んで欲しいと願っています。

サークル紹介 club activities プログラミング サークル



WordやExcelに代表されるソフトウェア。今回はそんなソフトウェアの開発などを行っている「プログラミングサークル」におじゃましました。案内されて部屋に入ってみると、メンバーの皆さんが熱心にコンピュータに向かって作業をされているところでした。「各自が、それぞれ目的に合ったコンピュター言語を勉強し、プログラミングを行っています」とサークル会長の加藤光さん。現在プログラミングサークルは、1〜4年生合わせて25名ほどで活動しています。

ソフトウェアは、「コンピュター言語」というものでコンピュターを動作させる手順・命令を書きあげて作成されます。この手順・命令を書きあげて作成される「プログラミング」といい、どういうソフトウェアを作るかによって、使用するコンピュター言語も違ってくるといいます。そして、日々の活動の成果としてアプリケーションやゲームの作成、プログラミングの大会に出場しているそうです。

メンバーの一人にお話を伺うと「私はゲームのプログラマーになりたいと思っています。そのために、いま必要とされる技術を身につけておきたいと思っています」と話してくれました。

またサークルではプログラミングのほかに、アプリケーション、ゲーム用の絵やグラフィック、音楽などの作成もしているそうです。「基本的にはパソコンと1対1の作業がメインですけど、同じ言語を勉強している人に教えたり、ゲームのアイデアを出し合ったりするのが楽しいですね」と、加藤さんは言います。

何かを開発するということとは、なかなか簡単にはできません。しかし日々の活動で切磋琢磨しながら、徐々に己のスキルアップを図り、最後には目的を達成できるのだと思います。一人でも多くの方がここからエンジニアとして活躍されるよう願っています。

秋田大学報道局(AUP) 佐藤

ソフトウェアは、「コンピュター言語」というものでコンピュターを動作させる手順・命令を書きあげて作成されます。この手順・命令を書きあげて作成される「プログラミング」といい、どういうソフトウェアを作るかによって、使用するコンピュター言語も違ってくるといいます。そして、日々の活動の成果としてアプリケーションやゲームの作成、プログラミングの大会に出場しているそうです。

メンバーの一人にお話を伺うと「私はゲームのプログラマーになりたいと思っています。そのために、いま必要とされる技術を身につけておきたいと思っています」と話してくれました。

またサークルではプログラミングのほかに、アプリケーション、ゲーム用の絵やグラフィック、音楽などの作成もしているそうです。「基本的にはパソコンと1対1の作業がメインですけど、同じ言語を勉強している人に教えたり、ゲームのアイデアを出し合ったりするのが楽しいですね」と、加藤さんは言います。

何かを開発するということとは、なかなか簡単にはできません。しかし日々の活動で切磋琢磨しながら、徐々に己のスキルアップを図り、最後には目的を達成できるのだと思います。一人でも多くの方がここからエンジニアとして活躍されるよう願っています。

秋田大学報道局(AUP) 佐藤

被災地へ… 災害ボランティア活動報告



9月10日(土)・11日(日)
〔岩手県釜石市〕

平成23年3月11日に発生した東日本大震災から半年。秋田大学の学生34人と教職員4人の計38人は岩手県の釜石市を訪れ、ボランティア活動を行いました。活動日は2日間とも釜石市災害支援ボランティアセンターで受付を行い、依頼された作業を午前10時から午後3時まで行いました。

活動1日目は、釜石駅から車で20分程南下した唐丹町で、津波で破壊された家屋の瓦礫の分別作業と解体前の家屋やサッシ戸などの搬出作業。活動2日目は、ボランティアセンターから5分程歩いた大渡町の河川敷で雑草の草刈り・草取り作業を行いました。河川敷には大人の背丈を超える程までに伸びた雑草地帯もあり、学生たちは使い慣れない草刈り鎌を使いながら、一生懸命に刈り取っていました。

11月26日(土)・27日(日)
〔岩手県陸前高田市〕



2回目となるボランティア活動では、秋田大学の学生30人と教職員4人の計34人が岩手県陸前高田市を訪れました。

活動1日目は竹駒町の津波をかぶった牧草地の草刈り作業とその近くの水門付近にある瓦礫の撤去作業。活動2日目は小友町の田んぼの瓦礫集積作業を行いました。海底の泥が入り混じった田んぼには倒壊した家屋などの瓦礫が散乱しており、釘やガラスの破片に注意しながらの作業となりました。

ボランティア活動に参加した学生たちは震災から半年以上が経過した被災地の現状を目のあたりにし、「まだまだ多くの支援が必要」「今後も継続的にボランティア活動を行っていきたい」と話すなど、今回の活動を通して、被災地の復興を望む気持ちが一層強くなったようでした。

秋田大学
分校長
だより Vol. 01



横手分校長
根岸 均

心地よい疲れ！

「教育ミニミニ実習」報告（その一）

①「午前中3コマ、昼食後にバスケットボール部に参加。もうクタクタ。先生って体力ないと務まらない」、②「どこでヒントを出したらいいのかタイミングが分からない」、③「正解を示すとなると、ただ答えてオシマイとはならず、その根拠や間違い例まで説明する必要があるので大変だった」、④「君たちに完成された姿を期待していないし、実際、無理。でも、教師になろうと決意して一生懸命取り組む姿勢は中学生に大きなインパクトを与えられると思います」、⑤「先生が説明しているとき、皆さんはどんな姿勢で聴いていましたか。皆さんの立ち居振る舞い、全てが中学生に見られているのです」

※冒頭の①～⑤の言葉
①初日の感想、②机間巡視しながらプリント問題の答えが出せないで悩んでいる中3生を見ての感想、③英語の授業で担当の先生からでは、正解を実習生の○○さんに説明してもらいましょうと突然振られたときの感想、④開校式における中学校長吉岡先生のあいさつ、⑤教務主任菅先生の助言

横手分校主催の「教育ミニミニ実習」がスタートし、前半の3日間が終了しました。（心地よく疲れしました！）この事業は、将来教職を目指すことを決意した大学生・高校生が補充授業や部活動等を通して中学生と交流するものです。

※冒頭の①～⑤の言葉
①初日の感想、②机間巡視しながらプリント問題の答えが出せないで悩んでいる中3生を見ての感想、③英語の授業で担当の先生からでは、正解を実習生の○○さんに説明してもらいましょうと突然振られたときの感想、④開校式における中学校長吉岡先生のあいさつ、⑤教務主任菅先生の助言

「教育ミニミニ実習」
スケジュール

■実習期間：平成23年12月26日（月）～28日（水）
平成24年1月12日（木）～13日（金）計5日間
■実習先：横手市立横手南中学校

前半のスケジュール

（平成23年12月26日（月）～28日（水））

8:30	横手南中学校集合
8:50～ 9:40	1校時「3年冬の学習会」の指導補助 (3年生5クラス)
9:50～10:40	2校時 //
10:50～11:40	3校時 //
12:10～13:00	昼食・休憩
13:00～14:30	部活動支援または実習授業準備 (活動を行っている部活動に参加し、 指導補助を行う。または1月の実習授業に向けての準備を行う)
14:35～15:00	日誌記録・諸連絡後解散



膝について生徒の目線で助言する



共に学びあう教学

国際
交流

フイールド言語調査
フイールド言語調査

国際交流センター 准教授 西田 文信



お世話になっているイエシさん一家と
(左から3番目が西田准教授)



言語調査の一コマ(右が西田准教授)



調査の見物に来る小学生



激辛のブータン料理(コメは赤米)

私の専門はシナチベツト言語学、中でも広東語と中国四川省及びブータン王国で話されているチベツト系言語です。現地調査を基礎に個別言語を記述分析してその諸特徴を説明する(記述言語学)とともに、言語間の相互比較からより古い段階の状態を推定して歴史的变化の過程を跡付け、言語の類型構造の発展のメカニズムを探究していく(歴史言語学)作業に従事しています。私はここ7年程ブータン王国のマンデビ語という言葉を調査研究するために毎年フィールドワークを行っています。最初は現地の方々に

受け入れられ調査できるか不安でなりませんでしたが、心優しい現地の方々に支えられ、田植えや新割りや牛の世話などお手伝いを頼まれながら、毎年順調に言語とその背後にある文化について教えてもらっています。ブータンは言語的に多様性に富んでいます。九州程の面積に英語を含めると実に19もの言語が話されています。英語と並んで公用語であるゾンカ語やその他2つか3つの言語を除いて、言語の実態は殆ど未解明です。世界で5人しかいないブータン言語の研究者で連携して研究を行っています。

私の研究しているマンデビ語はブータン中部に分布する言語で、古くは14世紀に活躍したチベツトの高僧が「この言語は古い言葉」だと言及しています。比較的文学が良かったのこの言語の先行研究が皆無だったため、この言語を研究することになりました。未知の言語を調査する際には、まず「基礎語彙」とよばれる基本的な単語、歴史的に変化しにくい単語、つまり借用されにくいその言語の根幹をなす単語を聞いていくのが常道です。私も初めは「頭は何といえますか？」から始め、身体名称・親族名称・天体名称・数詞・基本動作等を尋ねていく過程で、発音についての大きな仕組みが見えてきます。その後語彙・文がどうなっているかが分かってきます。パズルを解くようなスリリングな経験ですが、発音・単語・文の仕組みが分かった瞬間はこの上ない喜びを感じます。発音の詳細が分からない時は音響分析を施し、また、言語人類学的、社会言語学的情報も収集するようにしています。ブータンでも英語など大言語が広まり、少数言語が消滅の危機に瀕しています。自分たちの言語を保持したいという現地住民のために、毎年調査に赴き、消滅の危機に瀕した言語を記録し、文法書・語彙集・民話集を編纂して研究成果を現地に還元していくつもりです。

海外渡航【教職員の外国出張・海外研修】（一ヵ月以上）

所属・職名・氏名	渡航目的	渡航先国	渡航期間
工学資源学研究科 情報工学専攻 准教授 景山 陽一	平成23年度秋田大学研究者海外派遣事業による出張 （オークランド工科大学）	ニュージーランド	24.2.26～24.10.20

※外国出張と海外研修の届け出があったもののうち、一ヵ月以上の渡航を対象とする。前回掲載分を除き出発日が決定している渡航。

海外渡航（学生）【学生の海外派遣事業等】

事業名または経費	所属学部等名・氏名	留学先大学名(国名)	渡航期間
秋田大学学生海外派遣支援事業	教育文化学部 学校教育課程 教科教育実践選修 [4年]中山 慶美	交換留学／セント・クラウド州立大学 （アメリカ）	23.8.16～24.6.16
	教育文化学部 国際言語文化課程 国際コミュニケーション選修 [4年]高橋 慶大		23.8.12～24.5.16
秋田大学学生海外派遣支援事業	教育文化学部 国際言語文化課程 欧米文化選修 [3年]松本 翔	交換留学／黒龍江大学(中国)	23.8.26～24.8.31
秋田大学学生海外派遣支援事業	教育文化学部 国際言語文化課程 国際コミュニケーション選修 [4年]三浦 歌織	交換留学／ハンバット大学(韓国)	23.8.29～23.12.17
秋田大学学生海外派遣支援事業	教育文化学部 国際言語文化課程 国際コミュニケーション選修 [4年]長内 亨太	交換留学／ブカレスト大学(ルーマニア)	23.9.25～24.6.10
秋田大学学生海外派遣支援事業	教育文化学部 国際言語文化課程 国際コミュニケーション選修 [3年]桑島 佳代	交換留学／カリアリ大学(イタリア)	23.9.23～24.8.1
秋田大学学生海外派遣支援事業	教育文化学部 国際言語文化課程 国際コミュニケーション選修 [3年]荻莊 隼太	交換留学／ケニヤッタ大学(ケニア)	23.9.3～24.9.2
	教育文化学部 国際言語文化課程 欧米文化選修 [3年]秋林 宏紀		23.9.3～24.8.31
秋田大学学生海外派遣支援事業	教育文化学部 国際言語文化課程 国際コミュニケーション選修 [3年]関野 崇	交換留学／ハイファ大学(イスラエル)	23.10.1～24.6.20
秋田大学学生海外派遣支援事業	教育文化学部 国際言語文化課程 欧米文化選修 [3年]佐々木 愛子	交換留学／ケミ・トルニオ応用科学大学 （フィンランド）	24.1.3～24.12.31
秋田大学医学部医学科国際交流基金	医学部医学科 [5年]後藤 理恵	短期海外学修／ハワイ大学(アメリカ)	24.2.6～24.3.2

※前回掲載分を除き出発日が決定している渡航。私用での渡航は除く。

教育研究プログラム等採択状況（平成23年10月1日～12月31日採択分）

制度名	プロジェクト名	事業期間(年度)	交付金額等(単位:千円)	所属・事業代表者
(独)科学技術振興機構(JST) 研究成果最適展開支援プログラム【FS】ステージ(A-STEP【探索タイプ】)	モーションキャプチャを用いた舞踊の動作習得、 学習支援装置の開発	23年度～24年度	23年度 1,248 (総額1,690)	教育文化学部 准教授 松本 奈緒
(独)科学技術振興機構(JST) 研究成果最適展開支援プログラム【FS】ステージ(A-STEP【探索タイプ】)	回転逆さコーン外表面の液膜上昇流および ミスト分散を利用して液混合と酸素の高効率供給を 可能にする新規バイオリアクターの開発	23年度～24年度	23年度 650 (総額1,690)	大学院工学資源学研究科 教授 後藤 猛
(独)科学技術振興機構(JST) 研究成果最適展開支援プログラム【FS】ステージ(A-STEP【探索タイプ】)	新規ホイスラー型形状記憶合金を用いた 超磁歪アクチュエータの開発	23年度～24年度	23年度 1,430 (総額1,690)	大学院工学資源学研究科 准教授 左近 拓男
(独)科学技術振興機構(JST) 研究成果最適展開支援プログラム【FS】ステージ(A-STEP【探索タイプ】)	ヘテロ修飾構造を有するFePtナノドットパターンと 超テラビット記録	23年度～24年度	23年度 2,080 (総額2,860)	大学院工学資源学研究科 教授 石尾 俊二
(独)科学技術振興機構(JST) 研究成果最適展開支援プログラム【FS】ステージ(A-STEP【探索タイプ】)	高速・大容量磁気記録デバイスの実現に向けた 高機能ルチル型CrO2薄膜の低温・高品位合成	23年度～24年度	23年度 650 (総額1,690)	大学院工学資源学研究科 准教授 吉村 哲
(独)科学技術振興機構(JST) 研究成果最適展開支援プログラム【FS】ステージ(A-STEP【探索タイプ】)	簡易・迅速・低コストな浄化処理を可能とする 多孔質粒状環境浄化材製造技術の開発	23年度～24年度	23年度 1,300 (総額1,690)	大学院工学資源学研究科 助教 和嶋 隆昌
(独)科学技術振興機構(JST) 研究成果最適展開支援プログラム【FS】ステージ(A-STEP【探索タイプ】)	複合材料化した微小試験片による金属間化合物の 変形特性評価法の開発	23年度～24年度	23年度 1,443 (総額1,690)	大学院工学資源学研究科 准教授 大口 健一
(独)科学技術振興機構(JST) 研究成果最適展開支援プログラム【FS】ステージ(A-STEP【探索タイプ】)	液化木粉ポリオールを用いた 軟質系ウレタンフォームの開発と応用	23年度～24年度	23年度 1,300 (総額1,690)	大学院工学資源学研究科 准教授 徳重 英信
(独)科学技術振興機構(JST) 研究成果最適展開支援プログラム【FS】ステージ(A-STEP【探索タイプ】)	超音波照射を用いるメタンハイドレートの高 効率分解・回収技術に関する研究	23年度～24年度	23年度 1,300 (総額1,690)	大学院工学資源学研究科 教授 内田 隆
(独)科学技術振興機構(JST) 研究成果最適展開支援プログラム【FS】ステージ(A-STEP【探索タイプ】)	植物の育苗時に繁殖するカビ等の胞子類の 繁殖抑制効果に関する低コスト紫外線遮蔽可視光増強材料の 性能向上に関する検討	23年度～24年度	23年度 1,457 (総額1,513)	大学院工学資源学研究科 講師 辻内 裕
(独)科学技術振興機構(JST) 研究成果最適展開支援プログラム【FS】ステージ(A-STEP【探索タイプ】)	CRP遺伝子多型による次世代固形癌リンパ節転移 リスク診断法の開発	23年度～24年度	23年度 650 (総額1,690)	大学院医学系研究科 講師 本山 悟
(独)科学技術振興機構(JST) 研究成果最適展開支援プログラム【FS】ステージ(A-STEP【探索タイプ】)	新しい緑内障実験モデルによる神経保護薬の 効果検証装置の開発	23年度～24年度	23年度 1,495 (総額1,690)	医学部附属病院 講師 石川 誠
(独)科学技術振興機構(JST) 研究成果最適展開支援プログラム【FS】ステージ(A-STEP【探索タイプ】)	新規化合物SST-VEDの発毛促進剤としての有効性の検討	23年度～24年度	23年度 520 (総額1,690)	医学部テクニカルセンター 助教 夏井 美幸
(独)科学技術振興機構(JST) 研究成果最適展開支援プログラム(育成研究) 再委託	電子機器の電極バターニングに適した新規無機インクの開発	23年度	400	大学院工学資源学研究科 准教授 加藤 純雄
総務省 戦略的情報通信研究開発推進制度(SCOPE)	複合現実感を利用した聴覚障害者のための 映像字幕提示技術の開発とその普及を目指した学際研究	23年度～24年度	23年度 4,668 24年度 (未定)	大学院工学資源学研究科 特任助教 中島 佐和子
(独)科学技術振興機構(JST) 産学共創基礎基盤研究プログラム	L20FeCo及びL10FePt-bccFeCoに着目した 革新的磁石創成に関する基礎研究	23年度～25年度	23年度 9,555 24年度 14,950(予定) 25年度 14,950(予定)	大学院工学資源学研究科 教授 石尾 俊二

※競争的資金の23年度新規採択分のうち、追加内定分があったもの。前回掲載分を除く。学部にあっては、学部から直接公募機関に申請し、採択となったもの。前回掲載分を除く。

人事異動情報

（平成23年10月2日～）
（平成24年1月1日）

発令年月日	新配置	氏 名
採 用		
平成23年11月 1日	教育文化学部特別教授	高橋 カネ子
平成23年11月 1日	教育文化学部特別教授	寺井 謙次

※掲載対象は、部局長・教授以上(学長特別補佐も含む)。



↑ 秋田空港の搭乗口と到着口で見られます！

イベント&講座・講習会

〈催し物〉……………

平成23年度 第3回鉱業博物館特別展示会 「リニューアルからリニューアルまで ～鉱業博物館企画展の歩み～」

鉱業博物館創立30周年記念リニューアルから工学資源学部創立100周年記念リニューアルまでに開催された企画展のポスターと、企画展の様子を垣間見ることのできる写真集を展示する。
●1月6日(金)～2月12日(日)9:00～16:00
●鉱業博物館2階特別展示室
☎018・889・2461

天文台のイベント 「市民のための夜間天体観察会」

●毎月第1土曜日
●秋田大学手形キャンパス ☎018・889・2655

幼稚園教育のあゆみ展－歴史でたどる秋田大学教育文化学部附属幼稚園と秋田の幼児教育－

附属幼稚園に保存されてきた子どもや保育にかかわる様々な資料を中心に、秋田の子どもの生活や教育の歴史をたどる。保育教材や絵本・紙芝居などの児童文化財、保育実践の記録や地域での研究会など関係団体の活動の記録などの資料を中心に展示する。
●2月2日(木)～2月29日(水)10:30～17:00
(※土日・祭日除く。4日(土)、12日(日)は公開いたします。最終日は15:00まで)
●秋田大学インフォメーションセンター
●入場無料 ☎018・889・2677

秋田大学特別講演会 「法医学と社会の接点」

法医学は一見、私たちの生活には関係ないように思われる領域であるが、犯罪捜査や身元確認などで、大きな力を発揮する。警察庁科学警察研究所の福島弘文所長を講師として招き、法医学者としての経験を踏まえ、科学警察研究所の役割や法医学と社会のかかわりについて講演する。
●2月13日(月)16:00～17:00
●秋田大学60周年記念ホール
●入場無料 ☎018・889・2270

産学官連携セミナー 秋田大学発新技術創成シリーズ① 工学の視点から防菌防黴を語る

秋田大学産学連携推進機構では、新技術創出の探索と連携可能性を目指し、防菌防黴の第一人者である米虫節夫氏らを講師に招きセミナーを開催する。
●2月17日(金)13:30～17:00
●秋田大学ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー2階大セミナー室
●参加無料、要申込 ☎018・889・2712

秋田大学医学部附属病院 緩和ケアセンター 第2回緩和ケアセミナー

がん患者さんの「呼吸困難」にどのように対応するか、どうしたら苦しみを緩和できるか。緩和ケア治療のエキスパートであり、現場での知恵と技術を解明し、系統立った治療を行っている社会保険中京病院緩和支援診療科部長の吉本鉄介氏を招き講演会を開催する。
●2月17日(金)17:30～19:00
●秋田大学医学部附属病院第二病棟多目的室
●参加無料 ☎018・884・1111

秋田大学横手分校公開講演会 「横手を訪れた画家たち」

秋田大学教育文化学部美術教育講座の猪巻明准教授がこれまでに横手を訪れ、かまくらを題材に作品を残した画家・藤田嗣治や落合朗風を中心に、東山魁夷や酒井三良など横手にゆかりのある画家を絵画に触れながら紹介する。
●2月18日(土)13:00～14:30
●横手市交流センターY2ぶらざ
(横手市駅前町1番21号)
●参加無料、要申込 ☎0182・38・8304

平成23年度 秋田大学大学院医学系研究科 保健学専攻FD講演会

日本赤十字秋田看護大学の中村順子准教授を講師に招き、研究研鑽を通して質的研究(Grounded Theory Approach)のエッセンスを学ぶ。
●2月22日(水)14:00～17:00
●秋田大学大学院医学系研究科
総合研究棟2階総1講義室
●参加無料 ☎018・884・6543

平成20年度～平成23年度 文部科学省概算要求事業 「スイッチバック式ものづくり 一貫教育」報告会

秋田大学大学院工学資源学研究科は各学科における教育改革として過去4年間に実施した「スイッチバック方式ものづくり一貫教育」の報告会を開催する。同時に、9つの学生自主プロジェクトの成果発表も実施する。
●3月8日(木)13:30～17:00
●工学資源学部1号館共通127
●参加無料 ☎018・889・2806

秋田大学国際資源学教育研究センター シンポジウム 「日本を支える資源学の最新の 取組み Recent Advances in Resource Science and Technology to Sustain Japan」

【東京会場】●3月6日(火)9:30～16:30
●国際協力機構(JICA)研究所 国際会議場(東京・市ヶ谷)
【秋田会場】●3月8日(木)10:00～12:30
●秋田大学ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー2階大セミナー室
●両会場ともに参加無料、東京会場については要申込
☎018・889・2810

平成23年度 秋田大学卒業式

●3月22日(木)10:30～(開場9:30)
●秋田県民会館 ☎018・889・2207

秋大憩いのコンサート

【第17回】●2月19日(日)14:00～
「ケニアン・ファンタジー 伊藤康英&山下康介作曲
ケニア民謡によるピアノ連弾曲集 ほか」
【第18回】●3月24日(土)14:00～
「誘惑のマンドリン～ヴィヴァルディ、モーツァルト、ベートーベンが書いたオリジナル作品」
●秋田大学インフォメーションセンター
●参加無料 ☎018・889・2647
※詳細はHPをご確認ください。

平成24年度 秋田大学入学者選抜日程

【一般入試(前期日程)】

■試験実施日／平成24年2月25日(土)、26日(日)
■合格者発表／平成24年3月6日(火)

【一般入試(後期日程)】

■試験実施日／平成24年3月12日(月)
■合格者発表／平成24年3月22日(木)

※募集人員、選抜方法等については、一般入試学生募集要項で必ずご確認ください。



昨年の合格発表の様子

工学資源学部の学生が受験生への応援の意味を込めて、毎年作っている雪像。昨年のうさぎに続き、今年の干支・辰がキャンパスに登場しました。受験生のみなさん！昇り龍のように、合格目指して頑張ってください。

編集 後記

「生みの苦しみ」という言葉。アプリールを作っているとき、その言葉をしばしば思い浮かべます。どんな内容を掲載するか、どんな文章にするか。何かを新しく始めたり、作り出したりするときは苦しみがついてきます。卒業論文・制作に取り組んだ学生達もそんな苦しい思いを経験したのではないのでしょうか。

今回のアプリールでは「卒業論文」について特集しました。各学部、専攻、研究室によってその形は様々ですが、学生たちにとっては秋田大学での最後の課題、社会進出に向けた第一歩となります。学生生活の集大成として、自分の納得いくものができたでしょうか。卒業論文に立ち向かった一年を振り返ってみてください。

一方で、井上教授のお話にあった「蓄積した基礎力」が藤教授が話された「一枚一枚が常に勝負」。何か共通するところがあると思いませんか？これから卒業論文に取り組む在学生のみなさんにぜひ参考にしていただきたいと思います。

今回の表紙は医学科の佐藤歩子さんです。今回は初めての試みとして、HP用の動画撮影も行いました。長時間の撮影、本当にありがとうございました。(佳)

●アプリールの由来

「アプリール」とは、イタリア語で、「開く、開ける」という意味です。「積極的に秋田大学の窓を開放すること」を意識して名付けられました。